

# 展示室7

# 院展ゆかりの画家たち

2022年8月2日(火)～8月28日(日)

当館は昨年度、前田青郵による落葉に小禽が集うかわいらしい作品《晩秋》をご寄贈いただきました。本展では、《晩秋》を当館で初めてご紹介するとともに、前田が活躍した院展に注目し、彼に師事した平山郁夫《オアシス（アフガニスタン）》など当館で所蔵、また寄託いただいている、院展で活躍した日本画家たちの作品を展示します。

院展とは、在野の美術団体である日本美術院が明治時代より開催してきた公募展（日本美術院展覧会）のことです。日本美術院は明治31(1898)年に岡倉天心を中心に結成され、天心の理念のもと日本画の革新を目指し、現在まで独自に発展してきました。天心と行動を共にし、天心没後に日本美術院を再興した下村観山の《元禄美人図（弾琴図）》をはじめ、当館の日本画の代表的な作品である安田靉彦の《役優婆塞》、日常的な場面での女性を淡い色彩で繊細に描きだす岡本彌壽子らの作品をご紹介します。《晩秋》の魅力や、ほか画家の作品とともにご堪能いただければ幸いです。

No.	作者名	作品名	制作年	技法材質・形状	寸法（縦×横cm）	備考
1	下村観山	元禄美人図（弾琴図）	明治32（1899）年	紙本金地着色・幀装（二曲一隻）	154.3×174.4cm	寄託作品
2	木村武山	孔雀	大正6（1917）年	絹本着色・軸装	151.5×70.4cm	土岐文英氏寄贈
3	小川芋銭	蓬丘仙裳	昭和9（1934）年	紙本墨画淡彩・軸装	75.0×112.0cm	
4	小堀鞆音	本多平八郎	明治一大正時代	絹本着色・軸装	121.0×49.5cm	寄託作品
5	速水御舟	つぐみ	昭和4（1929）年頃	紙本着色・額装	44.3×50.3cm	
6	速水御舟	ひたき	昭和6（1931）年頃	紙本着色・額装	44.5×47.8cm	
7	安田靉彦	役優婆塞	昭和11（1936）年	紙本着色・額装	173.7×119.6cm	
8	前田青郵	晩秋	昭和46（1971）年	紙本着色・額装	47.2×61.8cm	上原豊氏寄贈
9	平山郁夫	オアシス（アフガニスタン）	昭和45（1970）年	紙本着色・額装	63.8×49.0cm	上原豊氏寄贈
10	森田曠平	大原女	昭和36（1961）年	紙本着色・額装	170.0×220.0cm	寄託作品
11	岡本彌壽子	吟	昭和58（1983）年	紙本着色・額装	178.3×93.6cm	作者寄贈
12	岡本彌壽子	夕べ	昭和59（1984）年	紙本着色・額装	181.0×118.0cm	作者寄贈
13	小谷津任牛	花と少女	昭和21（1946）年	紙本着色・幀装（二曲一双）	各171.0×164.8cm	田島健一氏寄贈
14	高橋常雄	安曇野	昭和60（1985）年頃	紙本着色・額装	40.0×53.0cm	新井典子氏寄贈
15	高橋常雄	化現	昭和47（1972）年	紙本着色・額装	150.0×75.0cm	高橋富枝氏寄贈
16	高橋常雄	宇	昭和48（1973）年	紙本着色・額装	145.7×70.5cm	作者寄贈

\*作品保護のため、会場内の温度、湿度、および照度を調整して展示しています。また、都合により展示作品を変更する場合がございます。ご了承ください。

## 【次回予告】「水のある情景」9月17日(土)～10月30日(日)

水は、雨や雪、河川や海など様々に姿形を変えて、自然と人の営みに大きな恵みをもたらします。夏から秋へと移ろい、秋雨の気配を感じはじめる季節に、水が描かれた作品をご紹介します。